

テーマ

# 食品用紙容器リサイクルの取組み



キーワード: 食品用紙容器、リサイクル、可燃ごみ削減、環境

## ○活動に取り組んだきっかけ・背景

使用済み食品用紙容器は汚れや臭い、防水加工の問題からリサイクルに適さないため、その多くが可燃ごみとして廃棄されています。2021年4月より、日本製紙株式会社が紙容器リサイクルの普及を目指して、浜松市で試験的に食品用紙容器リサイクル事業を始めたことから、この活動にゼミの学生と共に参加しました。

## ○活動の目的

プラスチック資源循環促進法の公布や新型コロナウイルス感染症対策から食品用紙容器の需要は高まり、大学の実習でも紙容器の使用頻度が増えています。これに伴い、使用済み食品用紙容器の廃棄量も増加していることから、この活動を通して、ごみ排出量削減の可能性を探りました。

## ○具体的な内容

食品用紙容器リサイクル専用の回収ボックスを、キャッチフレーズ「はじめようリサイクル、あつめよう紙カップ」とともに常葉大学浜松キャンパス内に設置しました。

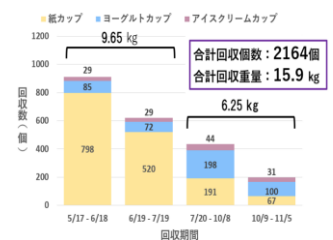
2021年5月から11月まで、汚れや臭いの影響が少ないアイスクリームのカップ、ヨーグルトの容器、飲料用の紙コップを対象として回収しました。

多くの方にご協力いただき、期間中に回収された紙容器は、個数として2164個、重量として約16kgでした。大学で使用したものも含めて、紙コップが最も多く回収されました。回収した紙容器は、本事業の窓口である環境啓発施設「えこはま」に届け、その後、日本製紙株式会社の工場にてリサイクル加工され、段ボール原紙に生まれ変わります。今回回収した紙容器がリサイクルされると、120サイズの段ボール箱、約20個分に相当します(ヨーグルトの容器を基準に換算)。この活動に参加して、一人一人のちょっとした心がけが、大きな成果につながることを改めて実感しました(チリツモ!)。現在も回収を継続しています。

## ○期待される効果など

今まで棄てていた食品用紙容器を一部でもリサイクルすることで、可燃ごみの減量効果が期待できます。また、木を原料として作られる紙(木質資源)をリサイクルして長く利用することで二酸化炭素排出を抑制でき、環境問題解決への貢献にもつながります。

自分にできる、小さなことから始めてみませんか?



## どれくらいの紙容器が段ボールになる?



教員名: 杉山 千歳

所属学部・学科:

健康プロデュース学部・健康栄養学科

職位: 教授



連携先:

浜松市西部清掃工場 環境啓発施設  
「えこはま」